

令和7年度第6回運営推進会議議事録

日 時： 令和8年3月26日（木） 14:00～15:15

会 場： グループホーム萌 レクリエーション室

出席者：

利用者家族	1名	出雲市役所高齢者福祉課様	1名
地域住民の代表	6名	利用者様	1名
欠席	2名	その他（代表・ホーム長・職員）	4名

令和7年度第6回運営推進会議の開会と新職員紹介

テーマ

令和7年度第6回運営推進会議として、職員と利用者の現状共有、腎盂腎炎に関する研修、職員向けのストレッチ実践、そして一年間の活動報告を行った。特に、利用者が発症した「腎盂腎炎」や認知症ケアの5つの視点、小学生を対象とした福祉教育の振り返りを通じて、健康管理、ケアの質の向上、共生社会への理解を深める。

トピックス

1. 令和7年度第6回運営推進会議

地域住民に日々の取り組みを知ってもらうことを目的とし、腎盂腎炎研修、一年間の振り返り、有益な情報提供の3点を中心に実施。職員は現在16名、介護福祉士が6割を占め、全国平均より質の高いケアを提供。研修①：腎盂腎炎の基礎知識と予防

尿道から侵入した細菌が腎臓で感染を起こす腎盂腎炎について学習。膀胱炎の症状に加え、高熱や腰痛が特徴。主な原因は「水分不足」「排尿の我慢」「拭き方」で、予防策として体重1kgあたり20～30mlの水分摂取と、排尿後に「前から後ろ」へ拭くことの重要性が強調された。

2. 研修②：職員の健康増進ストレッチ

プロの整体師から学んだ2つのストレッチを実践。1つ目は頭痛や肩こりの原因となる「咬筋」をほぐすストレッチ。2つ目は腰痛に関わる「腹壁攣縮」を和らげるストレッチで、誰でも手軽に実践できる。

3. 認知症ケアの5つの視点と年間活動報告

認知症の方がその人らしく過ごすための5つの気持ち（自分らしさ、結びつき、携わること、共にあること、くつろぎ）に基づいた施設の取り組みを報告。年間78回の行事や家族会、出前講座などの活動を通じて、利用者の誇りや安心感を育んでいる。

4. 福祉教育の振り返りと共生社会への意識

小学生の車椅子体験の感想を共有。段差越えの難しさなどを実体験し、障害を持つ人への理解と思いやりの心が育まれたことが報告された。参加者からも、幼少期からの体験学習の重要性や、自身の介護経験を通じて社会の意識変化を実感したという意見が出された。

5. 交流と年度末の挨拶

提案

- 「大丈夫、大したことない」と自己判断せず、常に「もしかしたら」の可能性を考え、利用者一人一人を注意深く観察し対応する必要がある。
- 利用者のトイレトペーパーの節約や不適切な拭き方など、細かい点にも配慮し支援していくべきである。
- 職員自身がストレッチを日常的に取り入れ、利用者にも活用していくことを検討する。
- 家族が共に参加できる行事を設けることは、家族との交流機会を増やす上で非常に良い。
- 小学生向けの福祉教育は未実施の地域も多いため、今後さらに広めていくことが望ましい。

アンケートより (N=8)

1. 介護全体の内容はわかりやすかったですか？

とてもそう思う 7名 そう思う 1名

2. 萌の取り組みは理解できましたか？

とてもそう思う 7名 そう思う 1名

3. 職員の説明や雰囲気から「安心・信頼できる施設」だと感じましたか？

とてもそう思う 7名 そう思う 1名

4. 今後も地域の一員として、この施設に関わりたいと思いましたか？

とてもそう思う 7名 そう思う 1名

5. 地域に開かれた施設としての姿勢に共感できましたか？

とてもそう思う 7名 そう思う 1名